

A 202 小児期における給食の実態(オ2報)保育所給食の食構成について

甲子園短大

富田絹子

西田美枝子

・山下慶子

目的 給食の栄養量が確立されれば、それに基づいて食構成をつくる。厚生省案の食構成は示されていないので、公立では市町村保育課で基準栄養量に従って、入手しやすい食品により食構成を作成している。そこでA市における昭和47年、55年度の保育所給食献立表の食品を調査、比較検討したので、保育所食事指導の一資料としたい。

調査方法 保育所給食献立表より、年度別、年令別に下記の分析を行った。

食品群として、国民栄養調査食品群列表に基づいて、穀類(米、小麦)、雑穀類、芋類、砂糖類、菓子類、油脂類、豆類、果実類、緑黄色野菜、その他の野菜類、きのこ類、海藻類、調味嗜好飲料、魚介類、肉類、卵類、牛乳および乳製品、加工食品、その他の食品、に分類した。各々について、月別、季節別、年間の $\bar{x}$ 、SD、CVを算出した。55年度について、15項目間の相関係数を求め、その結果を相関行列とした。

調査結果、47年度、55年度の、年間 $\bar{x}$ ( $n$ は約300)について、武藤案の食構成と比較すると、やや不足しているのは、1~2才の給食では、穀類、砂糖類、野菜類、卵類で、3~5才では、砂糖類、野菜類、果実類、卵類であり、他は充足している。両年度の食品群のCVは、乳類、卵類、肉類、野菜類、果実類、以外は、100をこえ、きわめて変動が大きい。55年度は、47年度に比し、魚介類、肉類、卵類、乳製品、野菜類、果実類の摂取量が増加しており、うち、野菜類、魚介類、乳製品に、有意差( $P > 0.01$ )が見出された。55年度の、各食品間の相関は、比較的低いが、いくつかは、正または、負の、よい相関が得られている。